

議会運営委員会県外視察研修報告書

議会運営委員会では、平成28年1月21日に、茨城県大洗町議会を訪問し、議会運営について視察をしてまいりました。参加者は、石原孝明副委員長、洪井康男委員、角田憲治委員、手塚定委員、矢澤功委員と永井孝叔議長、笹沼昭司副議長及び事務局職員2名、そして私、石岡祐二であります。

大洗町議会では、平成19年の議員改選を契機に「開かれた議会・信頼される議会を作る」ために議会活性化を進めてきました。

傍聴者の増加策の主な取り組みでは、各種団体への呼びかけから始まり、現在は、過去5年間の傍聴者に開催案内と傍聴をお願いするダイレクトメールを送付している。また、一般質問時に、傍聴者に聞いて分かりやすくするため、大きなスクリーンを活用し、パワーポイント等の画像で説明をしている。この結果、年間約400人が傍聴に訪れるようになった。

本会議での取り組みでは、執行部への反問権を付与し、町長以下、課長からも反問できるようにし、議員自ら反問があってもいいようにと質問内容を精査するなど資質の向上が図られたほか、提案型の発言が多くなった。

常任委員会では、一人2委員会（定数9人以内）に所属し、所属委員会外へも出席することとし、審議にかかわらないが発言ができることで、議員全員が情報の共有できる体制となっている。執行部の答弁については、係長を答弁者とし、実質の執務者から答弁を貰うほか、係長のレベルアップ、育成を図っている。

以上が、大洗町議会の議会運営の特徴があったところです。

議員自ら傍聴を呼びかける活動や本会議での工夫によって大勢の傍聴者を集め、町民の関心の高さが議会に緊張感を持たせている。「議員の資質が向上すれば、町民の資質も向上する」との信念において、議会改革を推進されたと言う。当市の議会改革の中においても、視察事例も含めさらに調査、研究し反映していきたい。

また、大洗町町議会視察終了後、北茨城市に向かい、さくら市縁の「野口雨情記念館」、「野口雨情生家・資料館」を見学してきました。

大洗町（研修風景）

